

なのはな通信

第12号 2004.7



編集・発行

勤医会東葛看護専門学校

〒270-0174 千葉県流山市下花輪409

TEL 04-7158-9955 FAX 04-7159-7055

発行責任者 久保 知代恵



交流合宿で
十期生の学びがスタートしました

憲法第九条を守る力を

校長 三上 満

世界がぜんたい幸福にならないうちは
個人の幸福はありえない

これは宮沢賢治が「農民芸術概論綱要」の中に書き記した言葉である。
つづけて、

世界にたいする大なる希願をまず起こせ
なべて(すべて)の悩みをたきぎと燃やし
なべての心とせよ

とも。

アメリカのイラク攻撃が迫ったとき、それこそ全世界で無数の人びとが、「戦争反対、イラクの人たちを殺すな」と反戦の行動に立ちあがった。その声におされ、その力が支えになって、世界の主だった国々の政府も、アメリカの戦争に反対し、「国連に団結し、国連主導で解決を」という立場に立った。

たくさんさんのジャーナリストやカメラマンが戦争のほんとうの姿を世界に知らせるために危険を冒して行動した。戦争によって生まれたバグダッドのストリートチルドレンを助けようと、現地に赴いた人たちもいた。みな、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」との精神から「世界に対する大なる希願」を抱いた人たちであった。世界市民としてそういう行動に立ちあがった人たちが、拘束され苦難を受け、あるいは銃撃の犠牲になった。一方その人たちへ、「反日分子」などと悪罵を投げつける偏狭な政治家もいる。

私たちは今ほんとうに「世界ぜんたいの幸福」を考える地球市民・世界市民として生きていかなければならない時代になったと思う。そして日本国民が「世界に対する大なる希願」に燃えて何よりもやらなければならないことは、憲法第九条を将来にわたって守りぬくことではないだろうか。九条の値うちを世界史的視野でとらえ、守り育てる力を、とくに若い人たちにつけてもらいたいと思う。

2004年度教育活動

主な学校行事、教育活動は次のとおりです。

2004年度教育活動（4月～7月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
4月	6日 始業 10日 第10回入学式 1科41名 2科41名	22～23日 合宿研修	「生命活動」の学び	6～7日 地域フィールド発表	22～23日 合宿研修 「生命活動」の学び 28日 田植え	26日～7/23日 各論前期実習
5月	12日 防災訓練	13日 療養環境実習		4/13～5/27日 老年・在宅看護論実習		
6月	4日 第10回体育祭 29日 第1回運営委員会		7～24日 成人Ⅰ実習	2～3日 老年・在宅ゼミナール 22～23日 社会保障ゼミナール		
7月	2日 千葉県下看護 学校体育大会 24日～8/29日 夏期休暇 31日～8/1日 臨床指導者研修会	5～9日 基礎Ⅰ実習 21日 基礎Ⅰ実習 発表	13～16日 成人Ⅰ実習 ゼミナール	国試補講	13～14日 生活・労働フィールド 16日 生活・労働フィールド 発表	国試補講

今後の予定（8月～3月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
8月	28日 ときめき学校探検 30日 始業 平和学習会		8/31～10/15日 老年・在宅実習		31日「関さん」の森	
9月	3日 総合防災訓練 17日 第7回 自治会総会			10日 栗生楽泉園 (社会保障)見学 28日～10/1日 研修旅行	8～9日 生命活動発表 17～10/8日 在宅フィールド	6日～10/1日 各論後期実習
10月	8日～9日 東葛祭 秋の学生健診 26日 第2回運営委員会	18～28日 基礎Ⅱ実習	19～20日 老年・在宅 ゼミナール	14日 研修旅行発表		12～15日 研修旅行 27日 研修旅行発表
11月	17日 両科推薦入試 25日 県下看護学生 研究発表会 27日 第10回 キャビンガレモニ-	8日 基礎Ⅱ実習 ゼミナール 12～13日 合宿研修 27日 キャビンガレモニ-	9～10日 社会保障 ゼミナール 29日～12/1日 地域フィールド	10/29～11/24日 総合実習 25日 千葉県下 研究発表会	15日 在宅フィールド 発表会 15～12/10日 基礎実習	1～12/16日 総合実習 25日 千葉県下 研究発表会
12月	国試願書提出 18日 ときめき学校探検 24～1/5日 冬期休暇	6日～16日 基礎Ⅲ実習 基礎Ⅱ実習ゼミナール		20～21日 総合実習 発表会		15～16日 総合実習発表会 20～23日 総合試験
1月	6日 始業 21～22日 1科入学試験			国試補講		国試補講
2月	4～5日 2科入学試験 第94回 看護師国家試験 22日 第3回運営委員会			看護師 国家試験	基礎実習 ゼミナール	看護師 国家試験
3月	5日 第9回卒業式 25日 国試合格発表 17日～春期休暇	8日 学年末試験 14～15日 技術ゼミ	8日 学年末試験 14～15日 技術ゼミ			

教育宣言

今日も学生たちは通ってくる。
江戸川のほとりのこの学校へ、自転車で、バイクで、徒歩で、雨の日も風の日も。

一九九五年創立時、学校は「憲法と教育基本法」をあらゆる教育活動の土台に据えることを宣言した。その初心は不変である。無数の生命を奪った戦争への深い反省と人間として生きる権利の深い自覚なしに、医療も看護も、そして教育も成り立たない。

私たちの学校は、看護に不可欠なたしかな知識・技術を身につけて、愛にみちた心豊かな看護師を育てる。それとともに平和や、人間が輝く社会への熱い情熱と社会に向けた広い視野をもった人間を育てる。

そのために私たちは、力をあわ

せて次のような学校・教育をめざす。

○学生が「学び」と学校生活の主人公となり、友情をはぐくみ、自主と自治と協力の力が育つ学校。

しめつけや抑圧で育つ人間性はない。
看護に不可欠な豊かな人間性、人間への理解力は自主・自治の中でこそ養われる。

○たしかな知識・技術を身につけていく厳しさと、はげまし、助け合いの暖かさを合わせ持った学校

「学ぶ」とは厳しいことでもある。学校には自覚的な規律にもとづいたひきしまった雰

囲気がなければならない。同時に、私たちはどんな場合でも学生を深く信頼し、暖かいはげましを送りつつける。

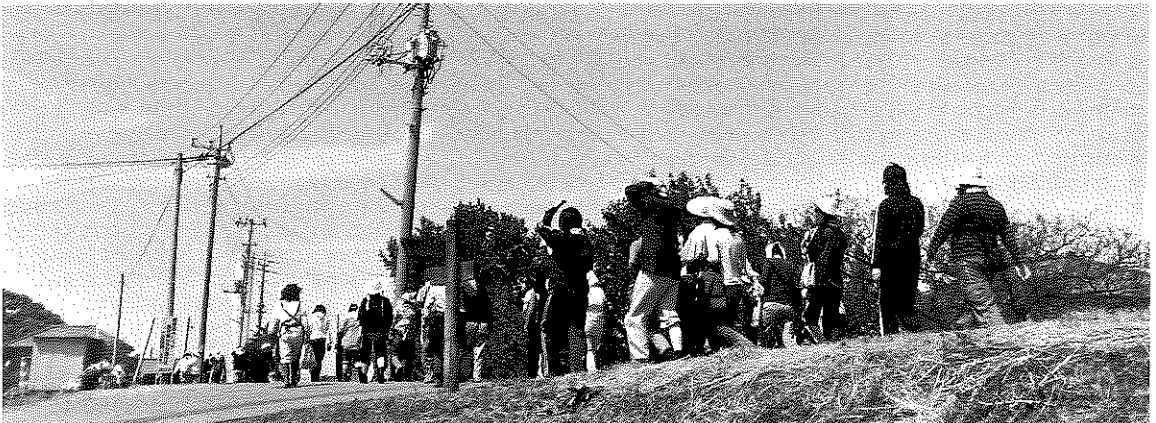
○教職員も学生もうちとけ合い、ともに苦楽を分かち合い成長していける居心地のいい学校。

学生は自己形成途上にあり、たくさんの苦悩を抱え、「よりどころ」を求めている。私たちは人間的自立への応援歌を送りつつげたい。そして、私たち自身も学生とともに成長する。

「教育とは、ともに希望を語ること」。希望とは、人間への信頼、明日への信頼、そして自己への信頼にもとづいた持続的な感情である。私たちは、勤医学会東葛看護専門学校が希望をはぐくむ青春のキャンパスになるよう力をあわせて進むことを宣言する。

二〇〇三年十二月一日

勤医学会東葛看護専門学校



交流台宿

一科十期生は、四月二十二日から二十三日の二日間に渡り、流山青年の家に於て三年間共に学んでいく仲間を知ろうという目的で交流台宿を行いました。

入学直後から実行委員会をつくり、実行委員や各係のリーダーを中心に毎日遅くまで準備を進めてきました。

一日目は青空のもと、バーベキューや焼そばを作り、思いっきりゲームやレクリエーションを楽しみ、夜は「私は何故看護師をめざすのか」を基本テーマに、各グループ様々な討論が展開されました。

そして、二日目の発表では、各々が今迄生きてきた中で辛かった体験や、身近な人の死をきっかけに看護師になろうと思った経緯等を話していく中で、めざした理由は様々であったが、「以下討論発表より抜粋」「看護師になるという決意、意識



の大きさに感動した。今迄友達にも話したことがないようなことを語れてよかった。一人一人の見方も変り、改めて看護師になりたいという気持ちが深まり、クラス全員で看護師になるんだという新たな気持ちが生まれた。皆、色々な思いを抱いてこの学校に来ていると思つた。世界のこととはあまり知らなかったが、医療従事者をめざす人間として日本だけでなく、世界のことも考えていかなければならないと感じた。時間と共に少しづつ自分を出せれば良い。この学校に入学して良かった。」等の報告がされ、その後の総括では、「皆の発表を聴いて暖かな気持ちでこの学校に来ていたと感じた。準備は大変だったが、結果より話し合つて作つていく過程が大切だったことが分かった。クラスメンバーは、多年層に渡るがみんな楽しんでた。このクラス全員で三年間助け合つていきたい。」等を確認し合つた。

そして、一人一人が大切にできるクラス集団とは・・・、患者さんの前に立つ喜びやきびしさも互いに真摯に学び合ひながら、どんな看護師になつていくのかを考えながら成長していきつてくれることを願つた台宿やその後でもありました。

実行委員の皆さん、本当にご苦労様でした。

(看護第1科1年担任

江島 典子)

田植えは
生命活動の
授業です

四月十日、二科十期生四十一名が入学した。平均年齢二十四・六歳。高校衛生看護科卒の十八歳や臨床経験三十年近いベテラン学生、子育て真っ最中のママさん学生まで様々である。

入学直後「仲間づくりレッスン」を目的とした合宿研修があつた。顔と名前が一致しないままいきなりのグループワーク、在宅患者訪問、レポート作成、学校宿泊に驚きながらも「一人一人の考えが違い、自分だけでやるよりはるかに良い物が出来上がつていくのが分かった。」「自分達のレポートは他グループよりレベルが低いかも、と考えていたが発表を聞くとそんな考えがばかしくなつた。同じ内容の物はなく、患者さんの生き方から皆さまさまざまな事を学んでいた。」と述べている。

そして今や二科の伝統になりつつある「生命活動の探求」の一環「田植え」。田植え日和の快晴のもと完全日焼け防止スタイルに地下足袋を履き、地域の方が守るゴミ焼却場の真下にある田んぼに入つた。何とも言えない泥の感触や未知の



虫達との出会いに、あちこちから悲鳴が上がるなか二時間で終了。「最初は小さくて申し訳なきさそうに映つた田んぼは、私達が行くときの声で溢れきらきらし、来たのを喜んでるように見えた」(機械ではなく)「手植えをしたら命を吹き込むような感じがして愛しい気持ちになつた」(看学に来たのに田植えなんてと思つたけど、田植えも看護も生きていくために必要と実感)と感想を書いている。

慣れない学習環境にとまどいつつ、ゆつくりではあるが居場所になりつつあるクラス。ジグザグデコボコつまずきぶつかりながら、学生も教員も真摯に学び合い、成長していきたい。

(看護第2科教員 机 みどり)

看護1科3年生
(8期生)

地域・高齢者に密着

「老年看護学実習」
「在宅看護論実習」

私たち1科3年生は、四月から七週間におよび、老年・在宅実習に臨んだ。

療養型病棟での老年実習で痴呆を持った患者さんに対する看護について、悩み、戸惑いながらも多くのことを学んだ。

『否定してはいけない』

『患者さんの持っている世界を理解する』と、授業で学んだ

が、実際患者さんの前に立ち、痴呆症状を目の前にすると、戸惑うことが多かった。しかし、患者さんと密着するなかで、患者さんの言葉の裏にある思い、例えば事実とは違っていたとしてもそのときの患者さんの思いをくみ取っていくことの大切さがわかり、少しずつだが痴呆を持つている患者さんへ



の看護が出来るようになったと思う。療養型病棟は施設入所待ちの方が多く、在宅へ戻れる方は極少数であった。介護力の不足や経済的理由が多いと聞き、現在の在宅療養をしていく上での支援はどのようなものがあるのかと疑問に思った。在宅実習で、ヘルパーや訪問看護などのサービスを利用しながら療養生活を送っている利用者さんを受け持ち、在宅実習

の実際をみる事が出来たが、介護保険など社会保障制度の仕組みがよくわからなかった。在宅では、その人らしい療養生活が出来るかといった利点がある反面、家族の介護負担や経済的負担があった。又、現在の介護保険制度では、誰もが必要なサービスを安心して受けられるのか、この制度は充分機能しているのかなど疑問に感じた。今回の実習で、社会保障への問題意識を感じたが、

制度の仕組みがよくわかっていないので、社会保障障ゼミで、どのような仕組みになっているのか何が問題なのか、皆で学び深めていきたい。

(1科3年担当 弓削 久美子)

看護2科2年生
(9期生)

各論前期

実習ゼミナール

2科9期生は、いま各論前期実習の(五月〜七月、外科・母性・小児・精神・感覚器)真つ最中です。生命活動の学びを土台に、臨地実習毎に「学習ゼミナール」を行っています。グループで豊富な看護実践をレポートし発表します。

母性では、分娩に立会い正常分娩の進行過程を学びます。

船橋二和病院では、家族立会い出産が多い。夫は陣痛の度に妻に「大丈夫だよ。痛いよね。頑張つて。」腰を

指圧、マッサージをして寄声をつけている。十八時間後に産声を

あげたベビーを見た夫は、汗をタオルで拭くふりをして

泣いていた。汗から感動の涙にかわった感動の瞬間だ

った。命の誕生の凄さを共感し、人間はたくさん人の助け

けがあって生まれてくる事を学

びました。その後ベビーは、ママの胸の中で過ごすカンガルケアーに入ります。産褥の看護展開を実施し

「母子同床によって深まる母と子の絆ー女性から母親へー変化していく

〇さんからの学び」をまとめました。

外科では、「胃癌で胃全摘術を受けた

教員Kさんからの学び」ー健康学習

会のテーマ早期離床の大切さに繋が



が開催されてきています。

(2科2年担任 伊波 すみ子)

精神では統合失調症の青年の回復過程と看護などです。質問や討議でさらに内容が深まり主体的なゼミナール

第10回 体育祭

Let's Enjoy!!

連続総合優勝 1科2年(9期生)

一生青春体育祭

六月四日、校内体育祭が流山総合体育館で行われました。各学年、実習前、実習中、実習後レポート作成中とどのクラスも大変忙しいスケジュールの中で毎年行われています。中には体育祭のためにクラスで練習をしたり、優勝を目指して挑んでいるクラスもありました。体育祭委員会では毎年「みんなが怪我なく楽しく参加できる」を念頭に置き体育祭の一ヶ月前から毎週一回の話し合いを持ってきました。私達三年生は三年間体育祭委員として運営に関わってきましたが、今回は運営のリーダーとして二年生が全体の組織を引っばつてきてくれました。今年は王様ドッチボール、バスケットボール、バレーボール、長縄、集団達磨さんが転んだの5種目を行いました。毎年の事ながら普段の生活ではなかなか分からないクラスの一面が見えたり、クラスの優勝に向かつて一生懸命応援している姿は、高校時代に戻った様に生き生きしていました。



私達三年生は、レポート作成の為に全く練習に参加する事が出来ませんでした。それでも目標は「優勝」。結果は得点はもらえないけれど達磨さんが転んだが群を抜いて一位でした。その他、経験者の多いバレーが二位。総合では四位に終わりました。結果には結びつかなかったものの、クラス全員が一つになり一勝負ごとに一喜一憂し、どの顔も笑顔、笑顔でした。優勝は一科二年生、二位が二科二年生、三位二科一年生、五位一科一年生でした。



体育祭が終わると、心地良い疲労感と普段動かさないと体を動かした事も手伝つてどっと脱力感に襲われます。クラスによっては飲み会というクラスも！

体育祭後、再びいつもの忙しい毎日へ戻っていきますが、体育祭を終えより一層クラスの団結が強まったようです。第十回体育祭は、皆の輝く笑顔と爽やかな汗で大成功に終わりました。

(1科3年 熊谷 飛鳥

大沼 乙子、川口 風)

学生自治会

こんにちは、学生自治会です。私達自治会は毎週金曜日に集まり、新入生歓迎会や卒業生を送る会などの企画、禁煙についての話し合いをしています。

4月に行った新入生歓迎会では、新入生が先輩、クラスメートと早く仲良くなれるように、学年、クラス関係なく交流できるように企画を考えました。ぞうきんがけおんぶりレーはどのクラスも白熱して盛り上がり楽しんでいただけたと思います。

この学校は実習などで全クラスが学校に集まる機会がありませんので、新歓・送る会などの全クラス、先生が交流できる企画を大切にしたいと思っています。

喫煙については毎年頭をかかえている問題で、常に話し合っていることでもありません。これまでもポスターを掲示してマンナの改善を呼びかけてきましたがなかなか進まないのが現状です。今ある喫煙する場所は学校の玄関横で地域の方々の目につく場所です。喫煙については場所も含めて検討しないといけない時期にはなっています。

「自治会って何してるの?」と知っている人が沢山いると思いますが、私達自治会は様々な活動をしています。最近では、学校、平ゼミと協力をし、イラクでの人質事件について全校集会を開きました。そこで人質となった三人の日本人の方への募金と励ましの手紙を呼びかけ、募金・手紙を募りました。これからも色々な活動をしていきたいと思っていますのでよろしくお願います。

自治会会長 利行 理子

戦争反対を訴え続ける平和ゼミナール

私達「平ゼミ」は平和を愛する看護学生が学年を越えて集い、学内外で活動しています。各学年の時間に合わせて交流することが、中々難しい中で学習会や集会に参加し、今の日本の立場やアメリカとの関係、日本がアジア諸国にしてきた行為を知るなど歴史や社会に目を向け勉強しています。

今年度は四月からイラクでの日本人拘束事件で始まりました。昨年からはイラク戦争、や自衛隊派兵の反対運動をしてきましたが、イラクへの自衛隊派兵が強行され日本人が被害者・加害者になるかもしれないという思いと一刻も早く戦争をやめさせなければという焦りの中で起こった事件でした。何かしたいと私達はいても立ってもいられず、翌日から緊急集会に参加するなど人質解放と自衛隊撤退を求めて行動してきました。校内では一人でも多くの学生達にイラクでの実態を知ってもらう為に、全クラスに訴え署名も三日間で四百筆集めました。高校生集会の壇上で平和を訴えていた今井さんを身近に感じていたこともありましたが、イラクの人々の為に活動していた民間人が拘束されたという知らせは衝撃的でした。その上解放され帰国した彼らに対して政府やマスコミが行った『自己責任』という批判には怒りとショックを強く感じました。拘束されたジャーナリストの方の話を聞いたり、民医連看護部総会での憲法学習会に参加しイラクの現状や日本と米の関係を知る中で人の命を守る医療者として、戦争には絶対賛成できない

と改めて感じました。イラクでは今も戦闘行為が続く軍隊だけでなく一般市民の犠牲者も増え続けています。日本でも来年は被爆六〇周年をむかえ直接話を聞ける最後の世代として、被爆者や戦争体験された方々のお話を積極的に聞き、思いを引き継いでいきたいと思います。

平ゼミでは戦争反対の声を強めると共に、夏に開かれる原水爆禁止世界大会に今年も代表団を送り出します。学習し行動する中で多くの人達と一緒に平和について考え学びを深めていきたいと思います。(平和ゼミナール代表 1科2年 石川 知佳)

人質とされた三人の方への激励と

募金を呼びかけるアピール

イラクでは今でも、はげしい攻撃が続き、たくさん子どもや女性やお年寄り犠牲になっていきます。

このイラクで四月、相ついで三人と二人の日本人が拘束されるという事件が起きました。いずれも戦禍に苦しむイラクの人たちを助け、あるいは戦争のほんとうの姿を知らせようと志した勇氣ある民間の人びとです。

幸い、「イラク復興支援は国連中心で！占領軍の一員となる自衛隊は撤退せよ」と求める日本国民の行動や、それに理解を示すイラクの宗教指導者の良識が力になって、五人は無事解放されました。

しかし日本では、困難をおかしても世界を視野に平和のためにつくそうとしたこれらの人びとへの攻撃や悪質ないやがらせが続いています。政府与党の幹部は「救出にかかった費用を負担させる」と言い、あ

るような「反日的分子」のために血税を使うな」とまで言っています。

とりわけ、イラクの子どもたちに「ナオコ」と呼ばれ慕われていた高遠さん、劣化ウラン弾被害の悲惨さを知らせようとした今井さん、戦争の真実をカメラの力で広げようとした郡山さんに対する悪罵やいやがらせはひどいものでした。それはメールなどを通して今も続いていると言われます。

今井さんたちは、いわば世界市民として、平和な世界を！と願う私たちの先頭に立って行動したのです。

心ない攻撃に苦しんでいる三人の仲間にもんで激励を送るうではありませんか。

高遠さんたちが日頃言っていたように、人道支援は武器を手におこなうものではありません。親目的であったイラクの人たちの心が、自衛隊派兵によって一変してしまつたことは、その何よりの証拠です。

自衛隊をイラクから撤退させ、人道支援・復興援助のために努力しているNGOの人たちを応援し、あるいは直接イラクの人たちに届けるために募金もおこないたいと思います。

三人をばげます手紙・メッセージ・書き置きは、支援のネットワークを通じて確実に三人に届けられます。募金は三人の方を通して、NGOの活動支援、イラクの人びとへの援助に有効に使われます。

生命を何よりも大切にすることを志すものとして、イラクへの攻撃をやめさせ一日も早い平和と復興を願うひとりひとりの心を三人へはげましと募金であらわしましょう。

二〇〇四年五月二十八日

勤医会東葛看護専門学校学生自治会有志
勤医会東葛看護専門学校教職員有志

よろしく ごきうさま 新任・退任 教員紹介



梅雨に入ったとい
うのに夏のように暑
い日が続いていま
す。外を見ると緑が
濃くなっており、も
うこの東葛看護学校
に移籍して二ヶ月た
つのか、としみじみ
思う今日この頃です。

私の経歴は看護学校
を卒業後すぐ都内の大
学病院に就職しまし
た。そのころは日本の
景気もよく、その病院
で三年働けば百八万円もら
えるという好条件があり、さっさと就職を決
めました。そして約六年間働きまして退職し
ました。その後訪問看護をやりたいと思ひ
様々な雑誌やインターネットで検索したとこ
ろ立川相互病院の記事が目にとまり面接を受
け就職することになりました。訪問看護を希
望して入職したわけですが訪問する患者様が
内科系の疾患が多く自分にはその知識が少な
かったためまずは消化器の病棟に配属されま
した。その後は十年間に渡り様々な病棟を経
験しましたが、病棟で働いていくうちに病
棟看護がおもしろくなり、気がついたら時
間がたつていたという感じです。

この看護学校に最初来た時は本当に大丈夫
かなあと心細くなりました。千葉の流山とい
う所も初めてだし、流山電鉄に乗れば四〜五
人しか乗っていないと思う泣きたくなりま
した。しかし今はやっと環境にも学校生活に
も少し慣れてきました。学生の臨床実習にも
付添い、学生、患者様から力をもらっている
感じです。教務の先生方にも暖かく見守って
いただき感謝の気持ちでいっぱいです。これ
からもがんばりたいと思いますのでよろしく
お願いします。

(専任教員 福井 慶子)



四月から東葛病院より
異動となり、第二科に
配属され、二ヶ月が過
ぎました。最近やっと
緊張もとれ、「先生」と
と呼ばれることにも抵抗
がなくなってきましたが、看
護師の時とは全く違う仕事内容に、少し戸惑
いながら日々過ごしています。

現在私は、色々な講義を聴講したり、実習
についていたりして、実際に学生がどのよ
うな教育を受けているのかを勉強している
ところです。学生は、私達の接する患者さん
人間をどうみるかを、教育学や人間学、生命
活動や地域フィールドなどを経て培ってい
きます。その中で、個々の学生の成長だけ
でなく、グループとして皆で成長していく姿
に、学生同士の学びあう力を感じ、すごいな
と思います。そんな学生の姿や発言に驚かさ
れたり、気づいたりして、私自身は、毎日毎
日新たな発見があつて楽しいです。また、学
生の可能性を信じ、応援し続ける諸先生方の姿
勢や考え方から、臨床で接していた時とは違
う学生の見方が出来るようになってきました。
臨床を出る時に「学校と臨床の橋渡しをし
なさい」とある方に言われました。常に、そ
ういう立場でいられるよう努力したいと思ひ
ます。学生を通して、臨床も学校も生き生き
できるような実践がいつか出来るように、
日々学生と共に学び、初心を忘れず、成長し
ていきたいと思います。

(専任教員 日倉 智美)



四年間の看護学校勤務
を終え、四月から千葉
民医連・千葉県勤労者
医療協会の南浜診療所
で勤務をしています。
看護学校では、人間の
体のメカニズム、生命活動の

すばらしさを、基礎から学びなおし、試行錯
誤の連続でしたが、あらためて命の重さを学
べました。日常の看護実践は、仕事を効率よ
くこなさなければなりません。しかしその実
践の構想を、人間の生命活動を基本に考え、
学生の皆さんと共に学んだことは、貴重な体
験であり、有意義な時間でした。

さらに社会保障ゼミや研修旅行を通して、
日本と世界の現状を見つめなおし、憲法・平
和を守って行くには信じていなくては成しえな
いとさらに確信になりました。沖縄研修旅行
で学んだ「命どう宝」を、絶えず忘れず、心
に刻んで行きたいと思つています。

また担当した一科七期生が、すばらしい頑
張りで、国家試験クラス全員合格という快挙
を成し上げ、それぞれの道を歩み出し、私も
心置きなく職場を変わりました。学生はじめ
教職員の皆様に関心感謝致します。

今は、地域医療の第一線で、楽しく仕事を
しています。皆さんも元気に楽しく学び、学
生生活を謳歌し、成長を続けて下さい。
(前1科7期生担任 深谷 京子)

第十回東葛祭記念企画のお知らせ

横井久美子・平和をうたう

本校は今年十年目を迎えました。日本
国憲法と教育基本法を理念として生命と
平和と民主主義を大切にしたい看護教育実
践を展開してきました。

学生が主人公の学校づくりの歴史をさ
らに進めるために記念コンサートを企画
しました。
多くのみなさんにご参加下さいますよ
うお願い致します。

日時 十月八日(金)

十三時三〇分〜十五時三〇分まで

場所 本校四階 体育室

横井久美子の歌とトーク

編集後記

第九十三回看護師国家試験は、
必須問題導入、問題数の増加、問
題用紙持ち帰り禁止、試験結果の
通知など要項が大きく変わりました。
本校は〇二年度に策定した
「看護師国家試験に対する基本方
針」を堅持し、必須問題対策を土
台に基礎学力を向上させる課題に
取り組まれました。学生たちの頑張
りで一科七期生二〇〇%、二科八
期生九十二%という結果を得まし
た。すでに九十四回にむけてスタ
ートを切っています。

本校の民主教育実践も十年を迎
え第十期生が入学してきました。
教員の移動もおこなわれ臨床から
二人の専任教員が加わりました。
両科とも教育シラバスが作成され、
臨床や地域との共同の教育活動を
一層発展させて参ります。

しかし2科に於いては、「衛生看
護高校」がすべて「五年制の看護専
攻科」となり、〇五年度の受験生確
保の課題がかつてなく厳しいもの
になると考えています。両科の教
育の交流が本校の大切な基盤です。
継続の可能性のために頑張つて参
ります。

学校通信編集委員会

山田かおる、徳丸美津子、久保知代恵